和漢古典籍研究分科会研究発表

# 「刊記を疑う」

## –校合調査に基づく刊年・印行年の推定–

2017.12.14

# 発表内容

- 分科会の目的
- 活動内容
- 研究報告

「刊記を疑う」

–校合調査に基づく刊年・印行年の推定–

- 事例①　科註妙法蓮華経
- 事例②　勢多唐巴詩

# 分科会の目的

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成の方法を習得することを目指す

# 分科会の活動内容

## 月例会

・基礎知識の習得

基礎知識を養うために、堀川貴司著『書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版）をテキストに、章節毎に担当を決め、その要約と発表

・調書作成

会員所属図書館の和漢古典籍資料を使って調書を作成

・見学

会場校の図書館や貴重書庫、付属施設を見学

## 夏期集中研究会

講演、見学など

# 分科会の活動風景

# 版木摺り作業見学

2016.12.07(水)

○駒澤大学禅文化歴史博物館所蔵
「正法眼蔵弁註」

江戸時代の曹洞宗僧である天桂伝尊(1648-1735)による永平道元「正法眼蔵」の注釈書。

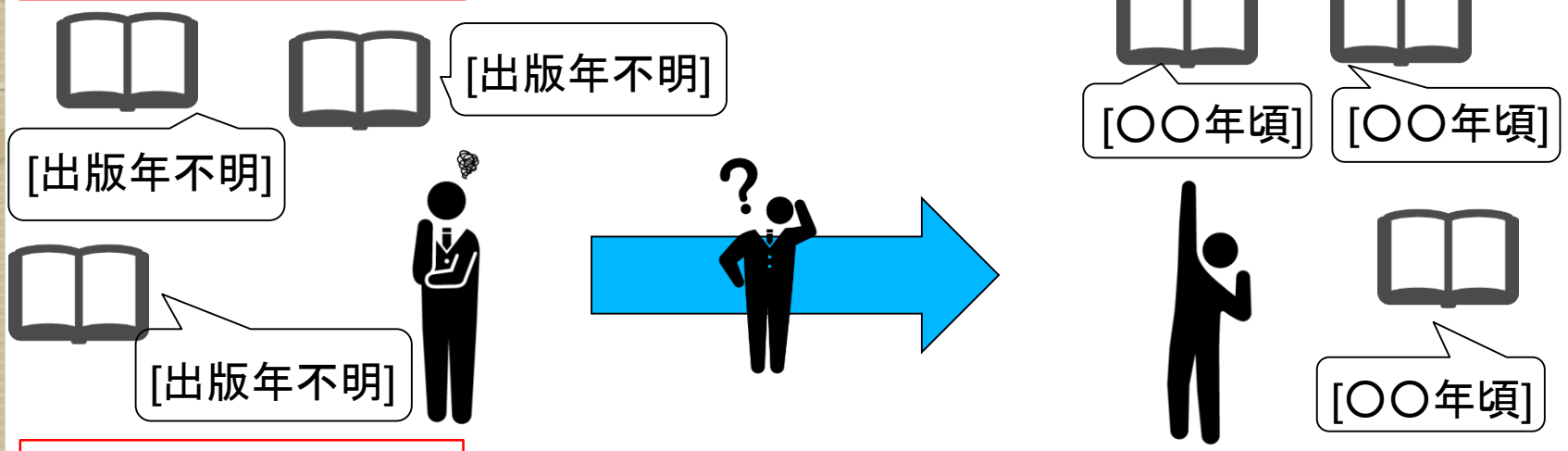
# 研究報告

「刊記を疑う」

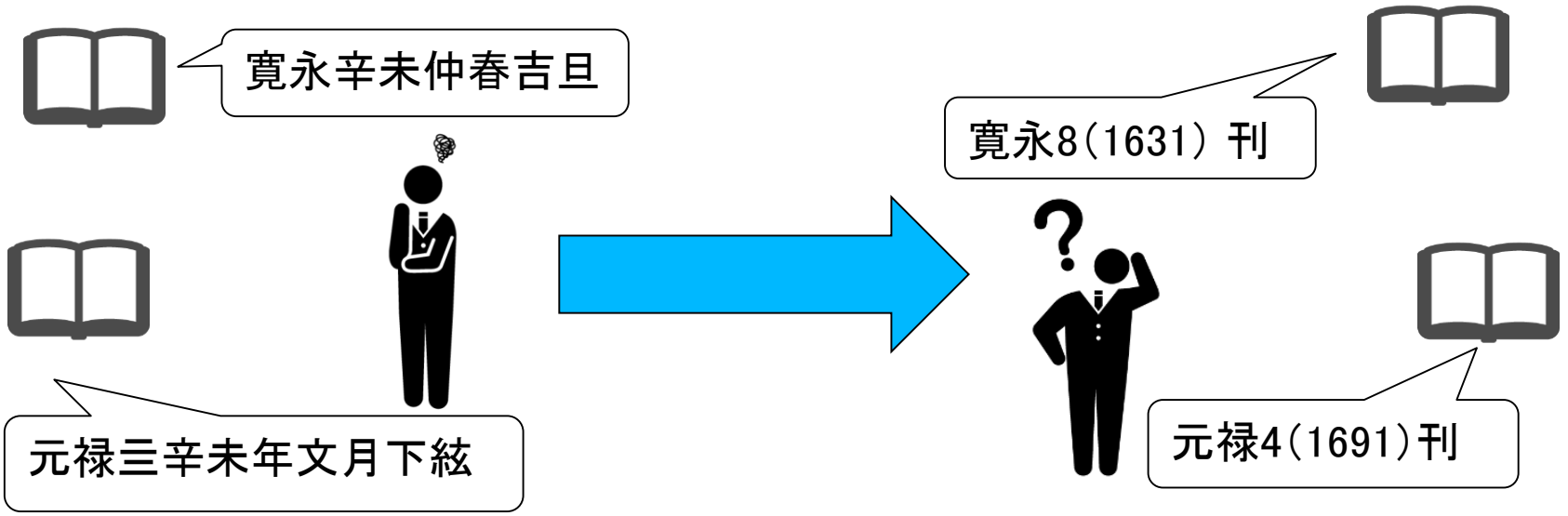
-校合調査に基づく刊年・印行年の推定-

# テーマ設定の背景

## 刊記のない資料




## 刊記がある資料



校合..!

「校合」(きょうごう)
＝校正と同じ。他の書物の本文と較べ合わせて、何れがより正しい本文であるかを考究しようとすること。 それを行なった本を「校合本」という。
『日本書誌学用語辞典』
(雄松堂書店 , 1982.10)

※本研究では、広い意味で複数資料を比較・検討する、という意味で「校合」という言葉を使います

# 刊年・印行年の取り扱い

① NII コーディングマニュアル
（和漢古書に関する抜粋集）F2.1

② NCR 2.4.2 出版年, 頒布年等

③ 研究者による刊年・印行年の捉え方

# ○NII 「コーディングマニュアル（和漢古書に関する抜粋集）F2.1」より

- 刊行年が判明した場合→「刊」を付記する
- 刊行年・印行年ともに判明した場合
  →刊行年に続いて印行年を丸ガッコ内に付記する
- 印行年のみが判明した場合→「印」を付記する
- 刊行年・印行年の判別がつかない場合
  →年のみを記録する

# ○NCR『日本目録規則1987年版改訂3版』より

- 刊行年を「刊」という用語を付して記録する
- 刊行年とは別に印行年が判明した場合→「印」という用語を付して丸がっこに入れて付記する。印行年のみが判明した場合も「印」という用語を付して記録する
- 刊行年、印行年の判別がつかない場合→年のみを記録する
- 出版年と頒布年双方の表示がない場合→序文等に表示された年を記録し、「序」等の語を付加する
- 出版年および序文、跋文等に表示された年がないか、あるいは表示されている情報が記録するのに適切でない場合→おおよその出版年代を推定し、これを角がっこに入れて記録する
- 出版年がどうしても推定できない場合→「[出版年不明]」と記録する

# ○NIIとNCR　出版年, 頒布年等

- 両者の方針は原則一致

- 記述方法は示されているが、刊年および印行年の判断は、目録担当者に委ねられている

⇒研究者による見解は…？

# 研究者による刊年・印行年の捉え方（1）

- 長澤規矩也

「その版木を作った、刊年が明記されなければいけない」

「後刷のものには、「後印」とか、「後刷」とかの文字を加えて、それを明別したい」

- 堀川貴司

「刊記は通常「刊」時点を指し示すものである」

「刊・印・修を正確に判定するには、書物全体の観察・記述と他伝本との比較が不可欠」

# 研究者による刊年・印行年の捉え方(2)

- 中野三敏

「版木が彫り代えられていれば、その彫り代えられた時点をとって「何年刊」とすべき」

- 大沼晴暉

「図書はこの刊次(版次)と印次(刷次)とをしっかりと押えておかなくてはならない」

# 研究者による刊年・印行年の捉え方（結論）

- 研究者著書等においても明確な刊年および印行年の判断方法は示されていない

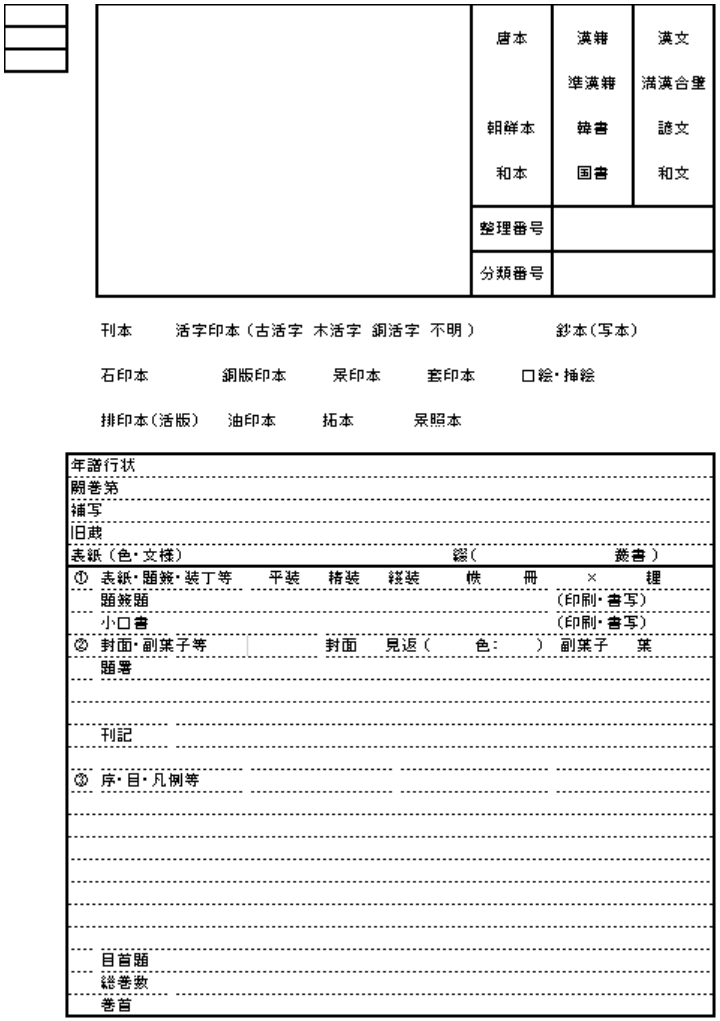
- 刊年と印行年をしっかりと判断し、
  それぞれ記述できることが理想

⇒そのためには、

書物の精密かつ正確な調査と
他伝本との校合が必要

# 研究の進め方

## 調書作成



| | | | |
|---|---|---|---|
| | 唐本 | 漢籍 | 漢文 |
| | | 準漢籍 | 混漢合璧 |
| | 朝鮮本 | 雑書 | 諺文 |
| | 和本 | 国書 | 和文 |
| | 整理番号 | | |
| | 分類番号 | | |

刊本　活字印本（古活字 木活字 銅活字 不明）　鈔本（写本）

石印本　銅版印本　景印本　套印本　□絵・挿絵

排印本（活版）　油印本　拓本　景照本

年譜行状
附巻第
補写
旧蔵
表紙（色・文様）　綴（　　叢書）

① 表紙・題簽・装丁等　平装　精装　線装　帙　冊　×　　裡
題簽題
小口書　（印刷・書写）
② 封面・副葉子等　封面　見返（　色：　）副葉子　葉
題署
刊記
③ 序・目・凡例等
目首題
総巻数
巻首

書名ヨミ
④ 本文巻首題署
⑤ 版式　辺　界　行　字（注文　行）
首書（注文・校字・評語）　圏点　批語
□　魚尾　版心題
内匡郭　×　裡
二段本　三段本（内寸　×　裡）
白文　返点　訓点送仮名付　句読点（有・無）
版心注記事項
避諱・刻工名・刻字数
和文（平仮名・片仮名・平仮名漢字交じり・片仮名漢字交じり）
⑥ 巻尾題
⑦ 巻尾跋・附録等　（附録　種）
⑧ 刊記・奥付等
⑨ その他所見
⑩ 出典等
東研目　頁　人研目　頁　内閣目　頁　国総目　巻　頁
和刻目　頁　古典総　巻　頁

私立大学図書館協会東地区部会和漢古典籍研究分科会

# 事例1　科註妙法蓮華経

## 今回確認したテキスト一覧

| | |
|---|---|
| 寛永8（1638）年　豊雪斎道伴 刊 | 延宝4（1676）年　中村五兵衛 開板 |
| 慶安2（1649）年　豊興堂 新刊 | 天和3（1683）年　中野氏 板行 |
| 慶安4（1651）年　中野氏道伴 | 貞享3（1686）年　河内屋善兵衛 刊 |
| 寛文8（1668）年　書肆 重刊 | 元禄4（1691）年　中村五兵衛 開板 |
| 寛文11（1671）年　山田屋喜兵衛 開板 | 元禄4（1691）年　灰屋三良右衛門 |

| | |
|---|---|
| 書名/著者 | 科註妙法蓮華經 8巻 / (姚秦釋)鳩摩羅什譯 ; (元)徐行善依科入註 ; (元)必昇校證 ‖ カチュウ ミョウホウ レンゲキョウ |
| VOL | [VOL]巻第1之上 |
| VOL | [VOL]巻第1之下 |
| VOL | [VOL]巻第2之上 |
| VOL | [VOL]巻第2之下 |
| VOL | [VOL]巻第3 |
| VOL | [VOL]巻第4 |
| VOL | [VOL]巻第5 |
| VOL | [VOL]巻第6 |
| VOL | [VOL]巻第7 |
| VOL | [VOL]巻第8 |
| 出版事項 | [京都] :豊雪斎道伴, 寛永8 [1631]刊 |
| 形態 | 10冊 ; 28.2×20.4cm |
| 他の書名 | OH:妙科 |
| 注記 | 版心の書名: 妙科 |
| 注記 | 四周双辺有界8行17字（小字注文双行） 中黒口双花口魚尾 |
| 注記 | 刊記:「寛永辛未仲春吉旦/書林豊雪齋道判刊」とあり |

# 刊記一覧

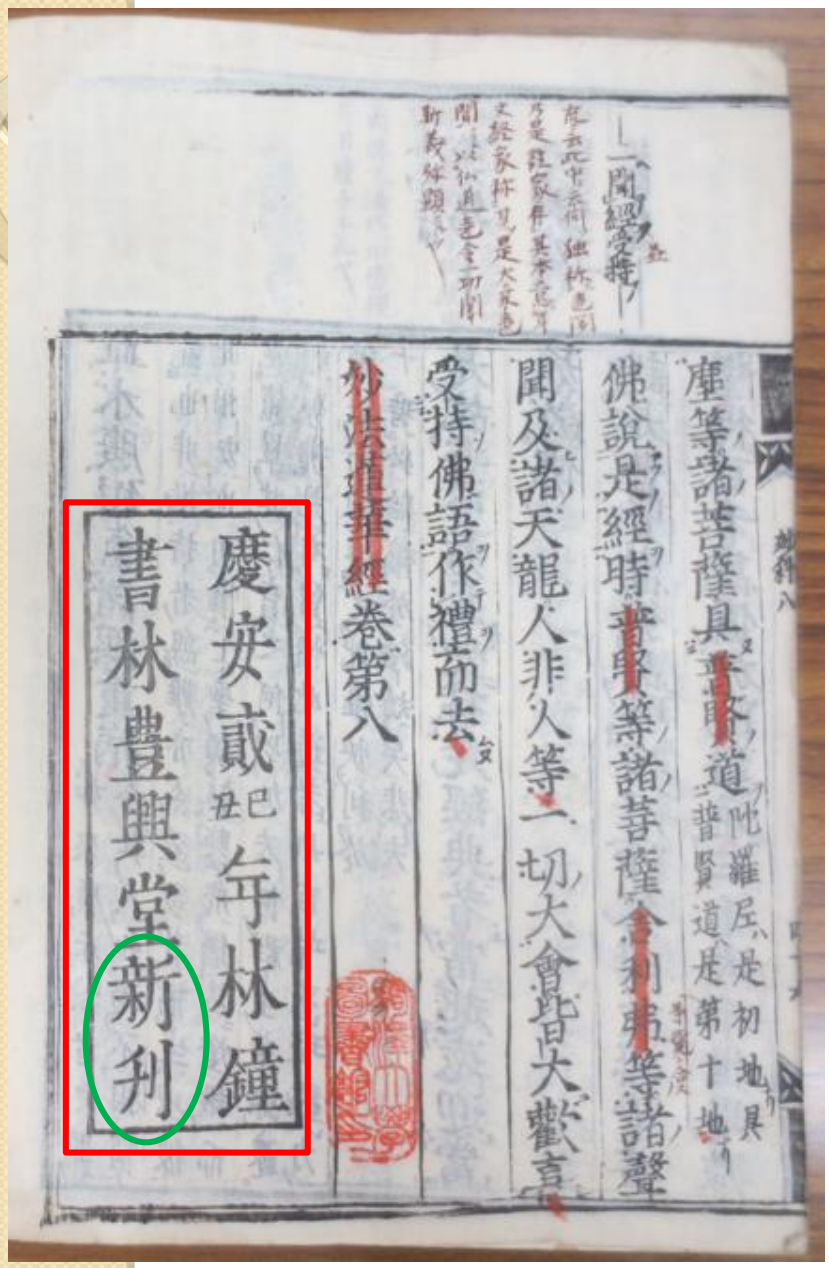
PUBフィールドに落とし込むと・・・

| テキスト | 刊記記載文 | 出版年 |
|---|---|---|
| 寛永8年(1631) | 寛永辛未仲春吉旦／書林豊雪斎道伴刊 | 寛永8 [1631] 刊 |
| 慶安2年(1649) | 慶安貳巳丑年林鐘／書林豊興堂新刊 | 慶安2 [1649] 刊 |
| 慶安4年(1651) | 慶安四辛卯夷則吉旦　中野氏道伴 | 慶安4 [1651] |
| 寛文8年(1668) | 寛文八年戊申臘月吉旦書肆重刊 | 寛文8 [1668] 刊 |
| 寛文11年(1671) | 寛文拾一暦辛亥二月吉辰／京寺町二条上ル町山田屋喜兵衛開板 | 寛文11 [1671] 刊 |
| 延宝4年(1676) | 延寶第四丙辰点孟秋上浣／寺町通二條下ル町／中村五兵衛開板 | 延宝4 [1676] 刊 |
| 天和3年(1683) | 天和三癸亥仲冬吉旦　中野氏板行 | 天和3 [1683] 刊 |
| 貞享3年(1686) | 貞享第三丙寅天仲春上浣／摂陽心齋橋筋順慶町角／励学堂　河内屋善兵衛刊 | 貞享3 [1686] 刊 |
| 元禄4年(1691)<br>中村五兵衛 | 元禄三辛未年文月下絃／寺町通二條下ル町／中村五兵衛／開板 | 元禄4 [1691] 刊 |
| 元禄4年(1691)<br>灰屋三良右衛門 | 元禄三辛未年文月下絃／大坂平野町梅檀木／灰屋三良右衛門 | 元禄4 [1691] |

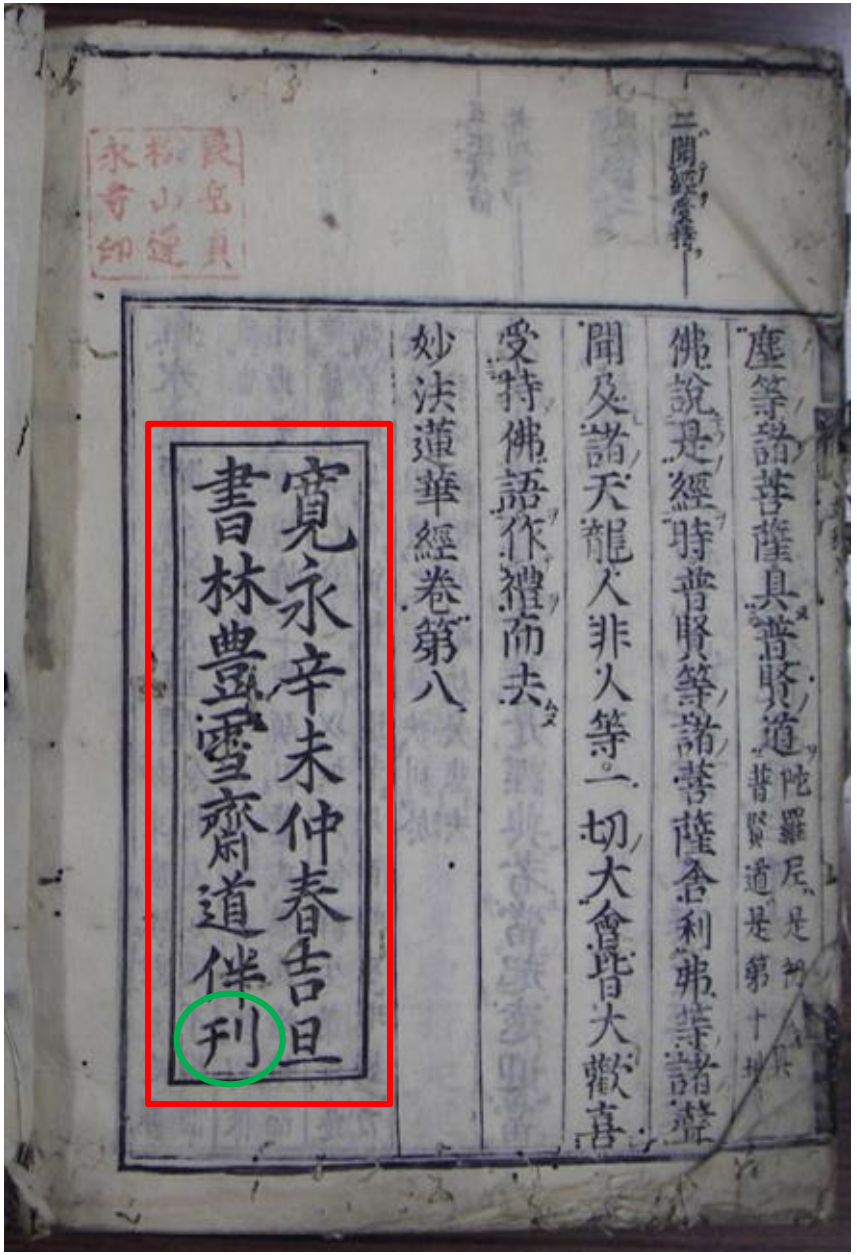
⇒「刊」「開板」「板行」など　＝　刊年となるのか？

# 刊記丁の紹介

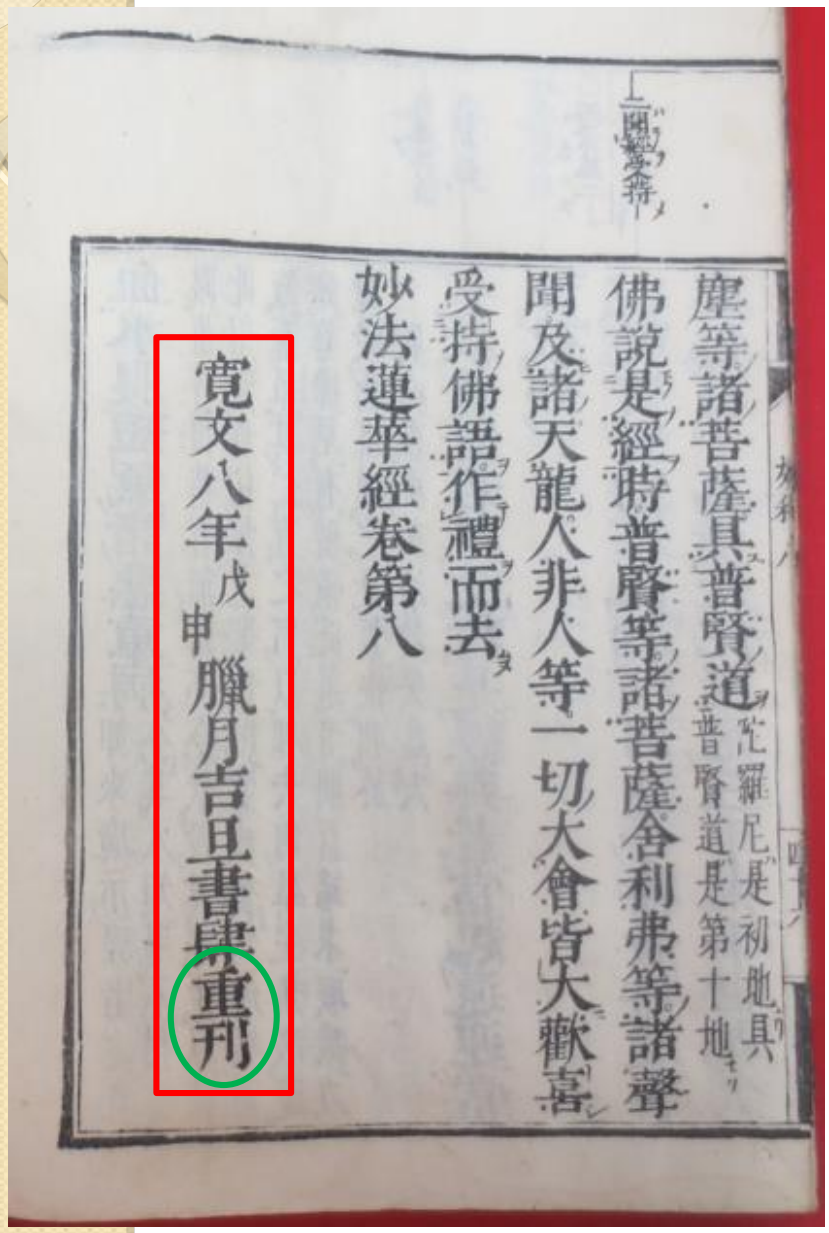
慶安2年（1649）【駒澤】H353-51



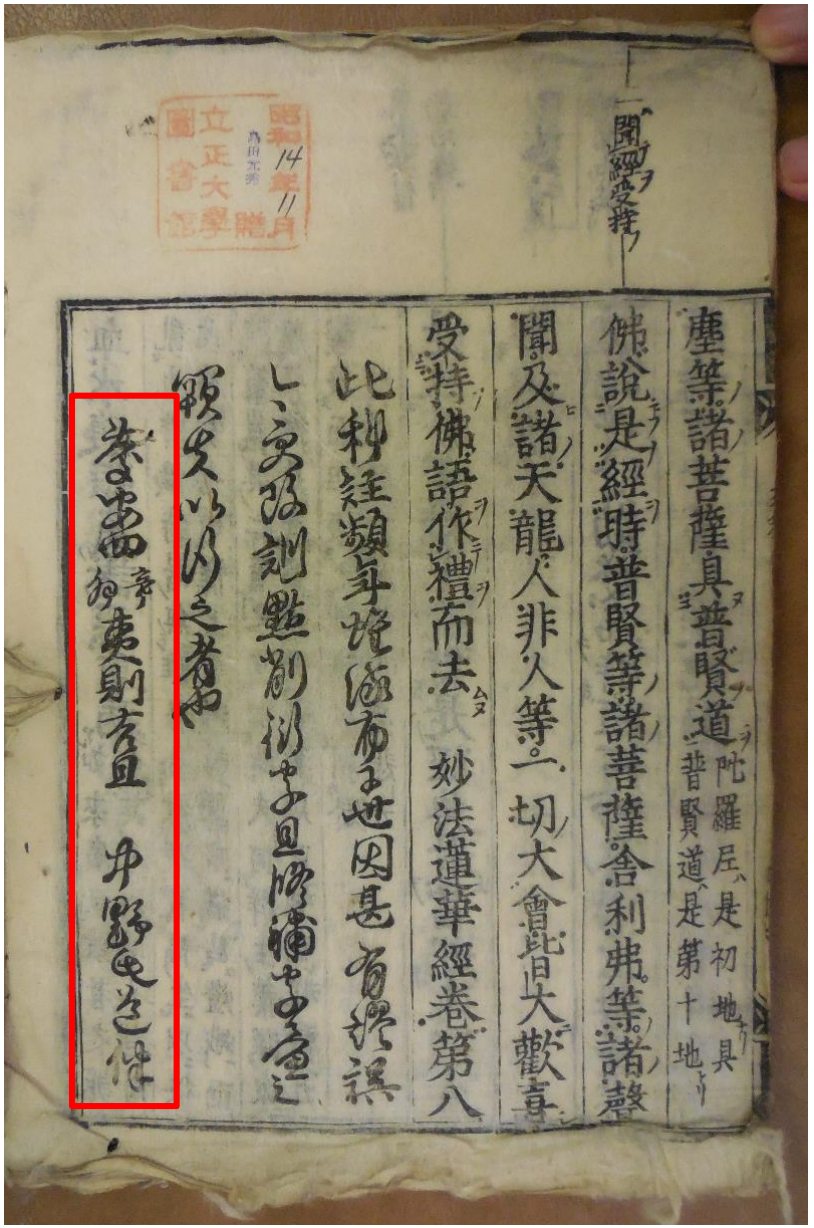

寛永8年（1631）【立正】A12/159



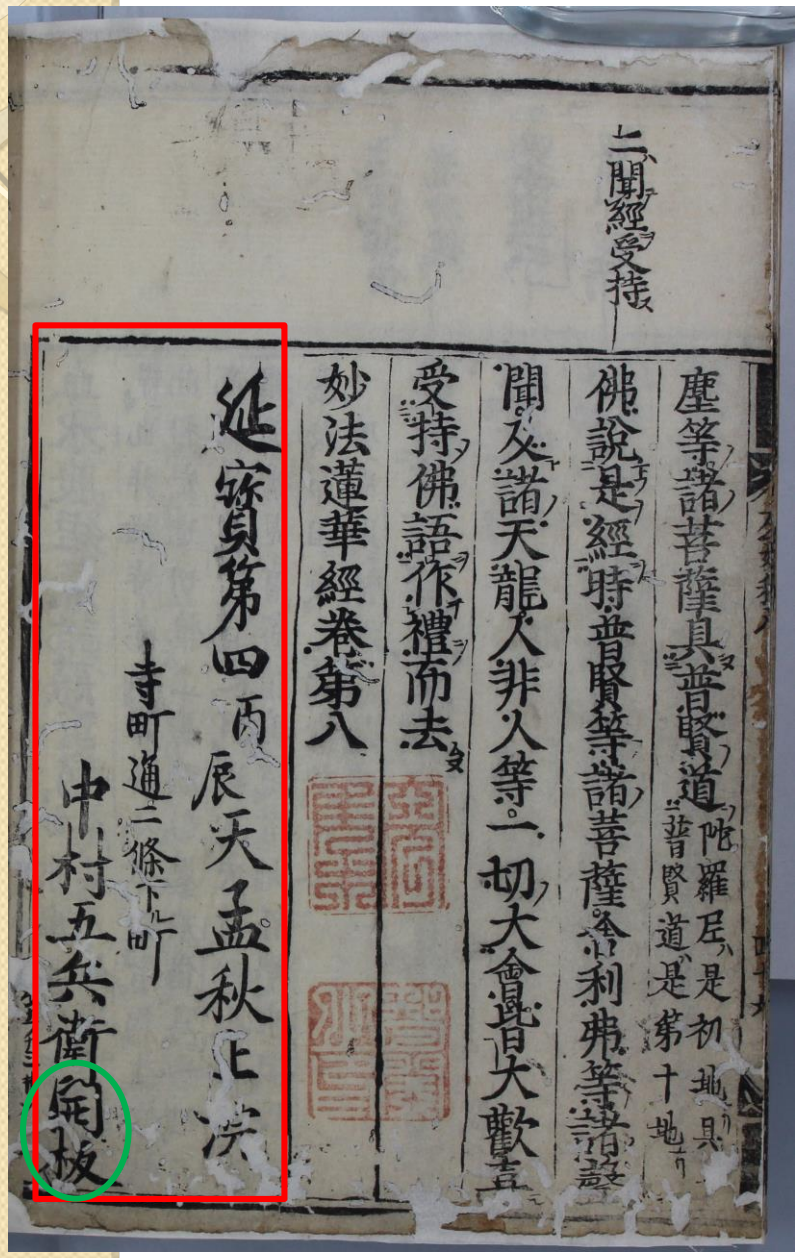
寛文8年（1668）【駒澤】H353-83



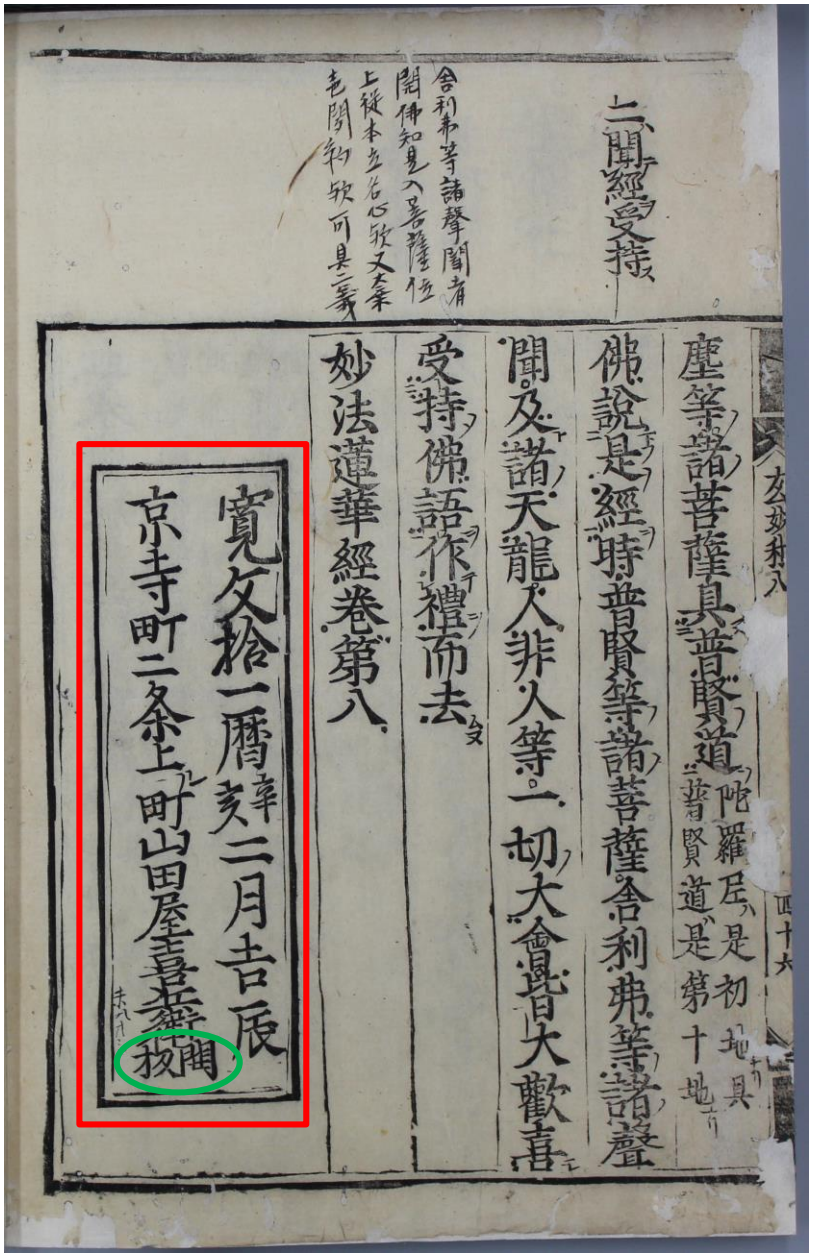

慶安4年(1651)【立正】A12/591



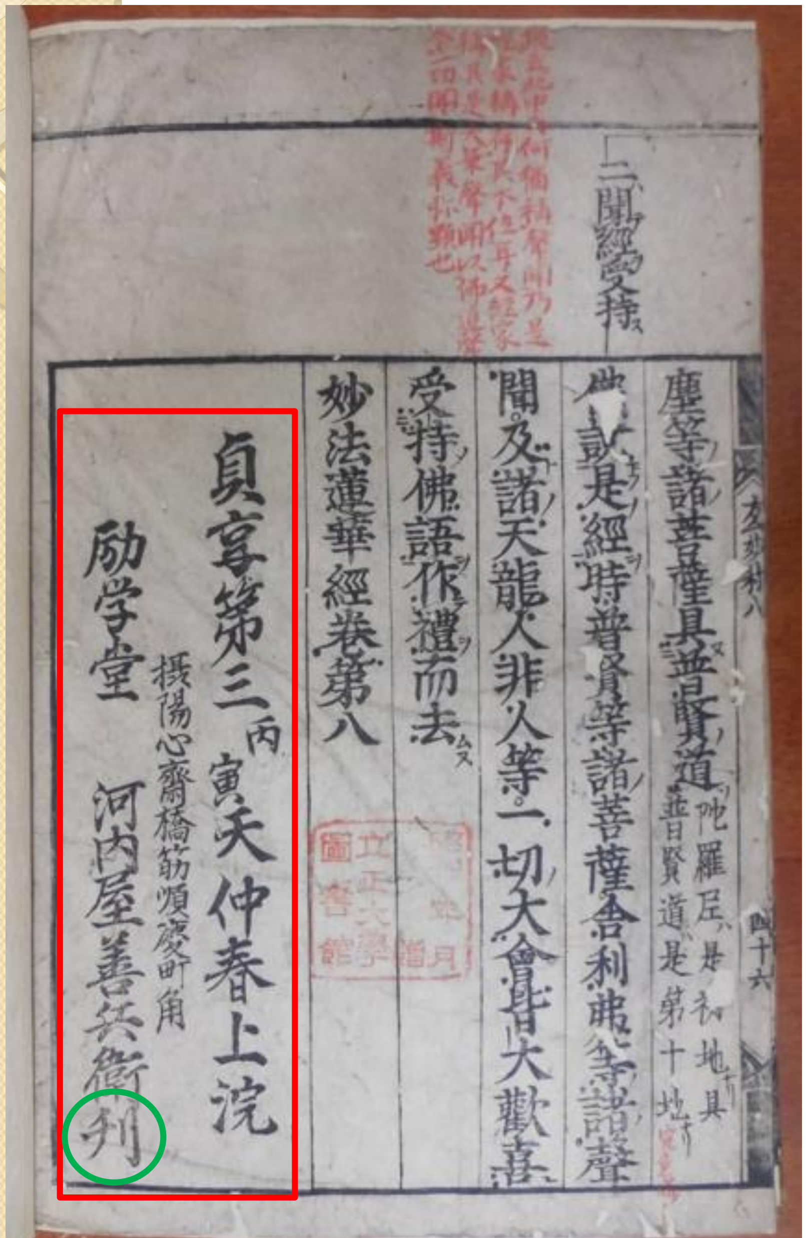
延宝4年（1676）【立正】A12/157



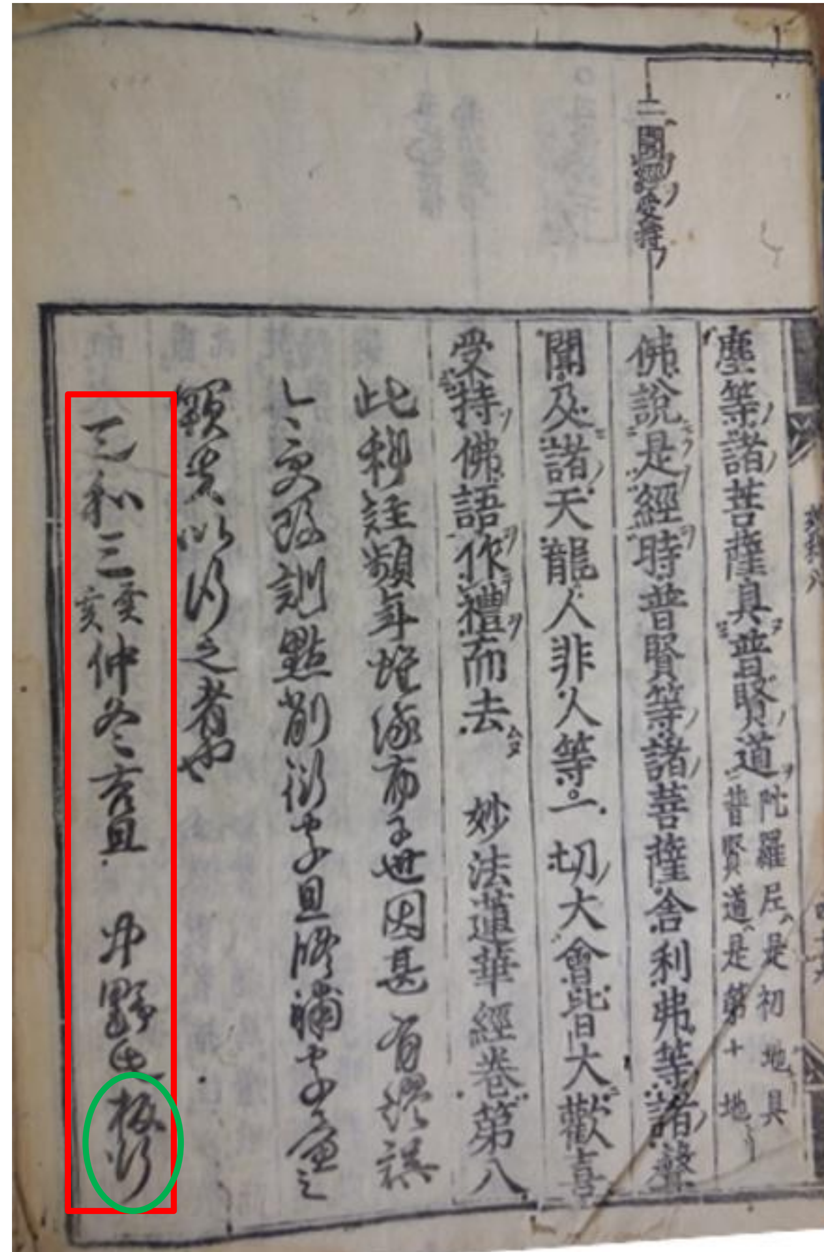
寛文11年（1671）【立正】A12/156



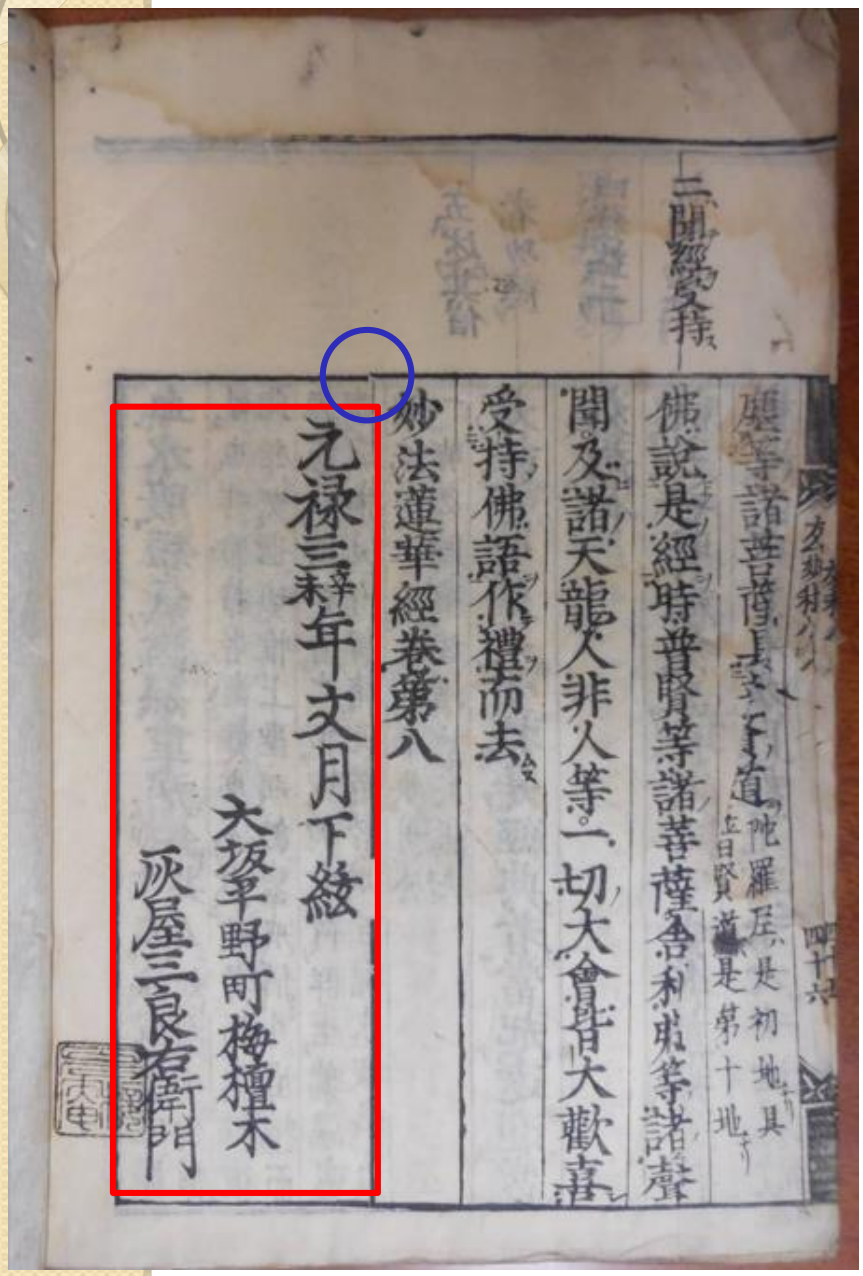
**貞享3年(1686)【立正】A12/564**



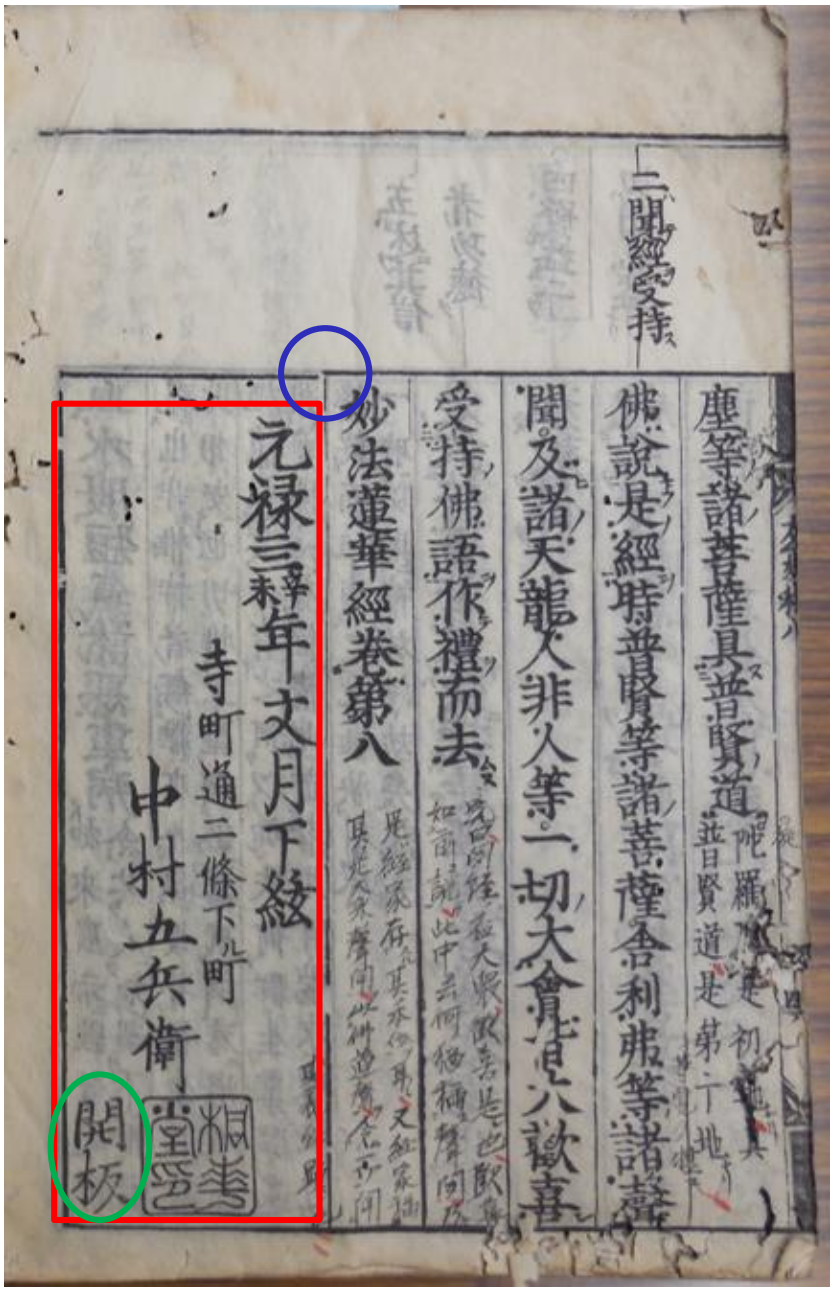

**天和3年(1683)【立正】SA12/17**



元禄4年（1691）【立正】183.3/Ka12

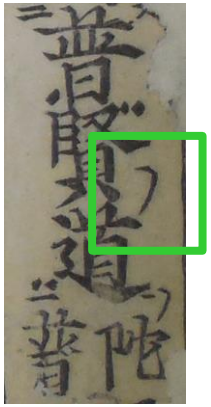



元禄4年（1691）【駒澤】H353-87



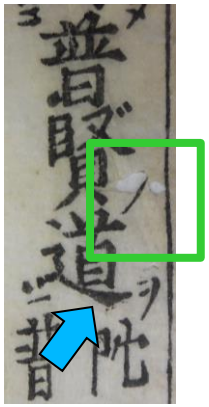
# 刊記丁の校合

貞享3
(1686)



寛文11
(1671)

寛文8
（1668）



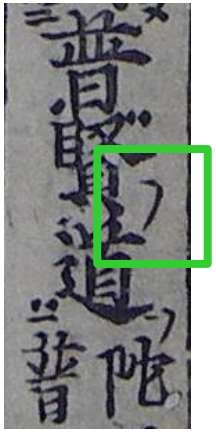
慶安4
(1651)

慶安2
(1649)

寛永8
(1631)

元禄4
(1691)
灰屋

元禄4
(1691)
中村



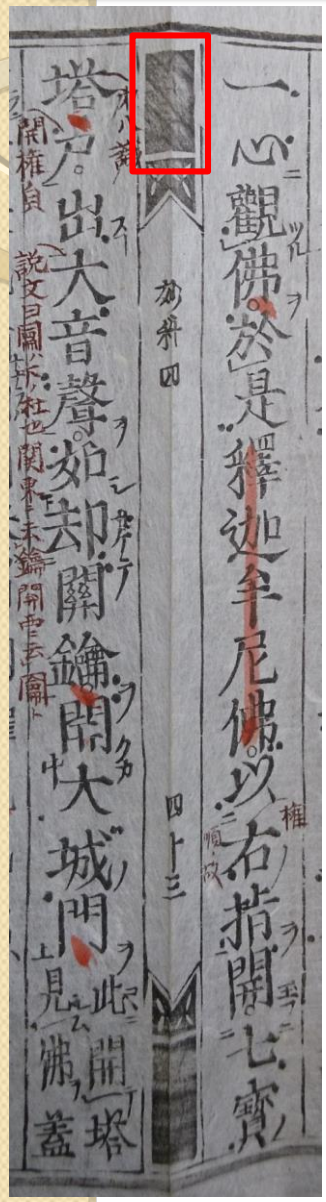
延宝4
(1676)

天和3
(1683)

＊「陀」の右上の「。」は書入れ

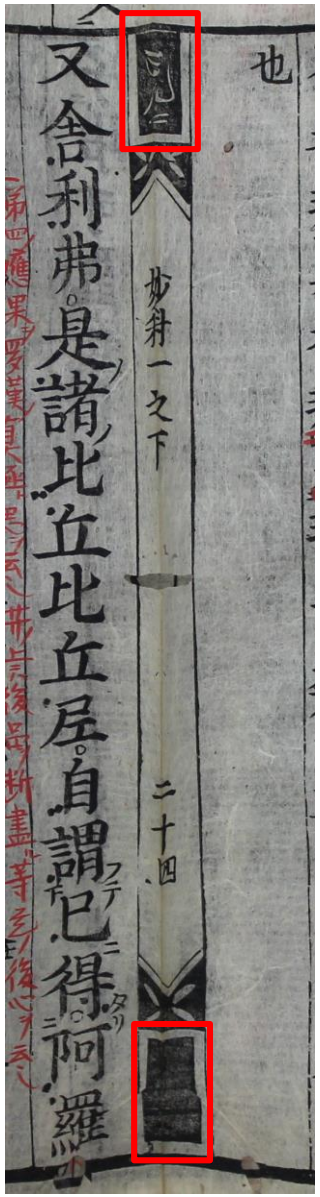
巻4　43丁
版心の黒口が割れている

巻1下24丁
版心の黒口に「模様」が施されている

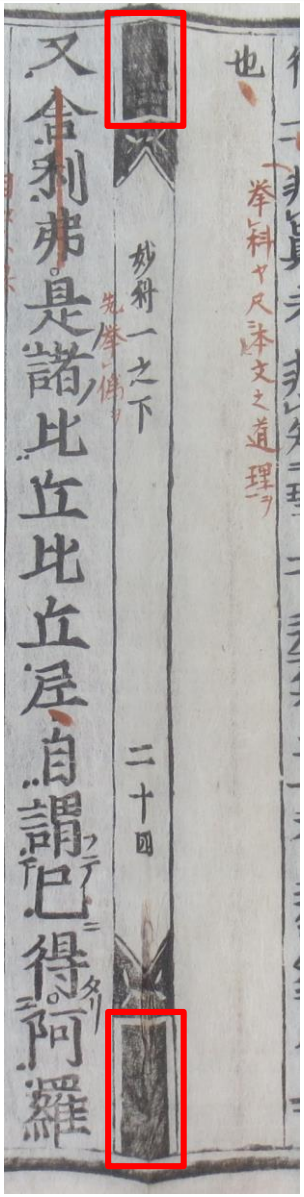



慶安2(1649)

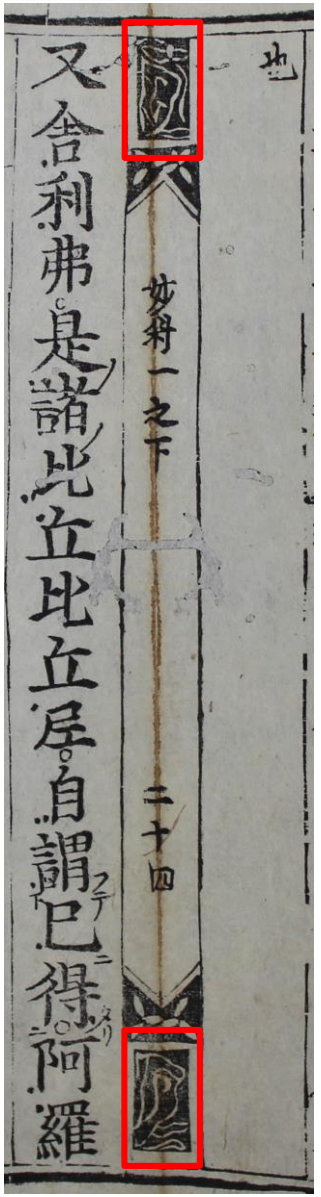
天和3(1683)




貞享3(1686)




慶安2(1649)




延宝4(1676)

# 校合の結果

| | 刊 | 印 | |
|---|---|---|---|
| 同版 | ○寛永8年(1631)<br>［京］、豊雪斎道伴 | 慶安4年(1651)<br>［京］、中野氏道伴 | 天和3年(1683)<br>同 |
| 同版 | ○慶安2年(1649)<br>［京］、豊興堂<br>（＝中野小左衛門） | ／ | ／ |
| 同版 | ○寛文8年(1668)<br>＊書肆名なし | ／ | ／ |
| 同版 | ○寛文11年(1671)<br>京、山田屋喜兵衛 | 延宝4年(1676)<br>京、中村五兵衛 | ／ |
| 同版 | ○貞享3年(1686)<br>大坂、河内屋善兵衛 | 元禄4年(1691)<br>京、中村五兵衛 | ／ |
| | | 元禄4年(1691)　＊寛文版と貞享版が交じる<br>大坂、灰屋三良右衛門 | |

| テキスト | 刊記記載文 | 校合前出版年 | 校合後出版年 |
|---|---|---|---|
| 寛永8年 | 寛永辛未仲春吉旦／書林豊雪斎道伴刊 | 寛永8 [1631] 刊 | 寛永8 [1631] 刊 |
| 慶安2年 | 慶安貳巳丑年林鐘／書林豊興堂新刊 | 慶安2 [1649] 刊 | 慶安2 [1649] 刊 |
| 慶安4年 | 慶安四辛卯夷則吉旦　中野氏道伴 | 慶安4 [1651] | [寛永8（1631）刊]<br>慶安4 [1651] [印] |
| 寛文8年 | 寛文八年戊申臘月吉旦書肆重刊 | 寛文8 [1668 ] 刊 | 寛文8 [1668] 刊 |
| 寛文11年 | 寛文拾一暦辛亥二月吉辰／京寺町二条上ル町山田屋喜兵衛開板 | 寛文11 [1671] 刊 | 寛文11 [1671] 刊 |
| 延宝4年 | 延寶第四丙辰点孟秋上浣／寺町通二條下ル町／中村五兵衛開板 | 延宝4 [1676] 刊 | [寛文11（1671）刊]<br>延宝4 [1676] [印] |
| 天和3年 | 天和三癸亥仲冬吉旦　中野氏板行 | 天和3 [1683] 刊 | [寛永8（1631）刊]<br>天和3 [1683] [印] |
| 貞享3年 | 貞享第三丙寅天仲春上浣／摂陽心齋橋筋順慶町角／励学堂　河内屋善兵衛刊 | 貞享3 [1686] 刊 | 貞享3 [1686] 刊 |
| 元禄4年<br>中村五兵衛 | 元禄三辛未年文月下絃／寺町通二條下ル町／中村五兵衛／開板 | 元禄4 [1691] 刊 | [貞享3（1686）刊]<br>元禄4 [1691] [印] |
| 元禄4年<br>灰屋三良右衛門 | 元禄三辛未年文月下絃／大坂平野町梅檀木／灰屋三良右衛門 | 元禄4 [1691] | ＊継続調査<br>他伝本を確認 |

# 科註妙法蓮華経まとめ

- 刊記に「〇〇年刊」「〇〇年開板」等の記載があり、開板資料と考えられる資料であっても、実際には記載年の開板ではなく、後印本の可能性がある。

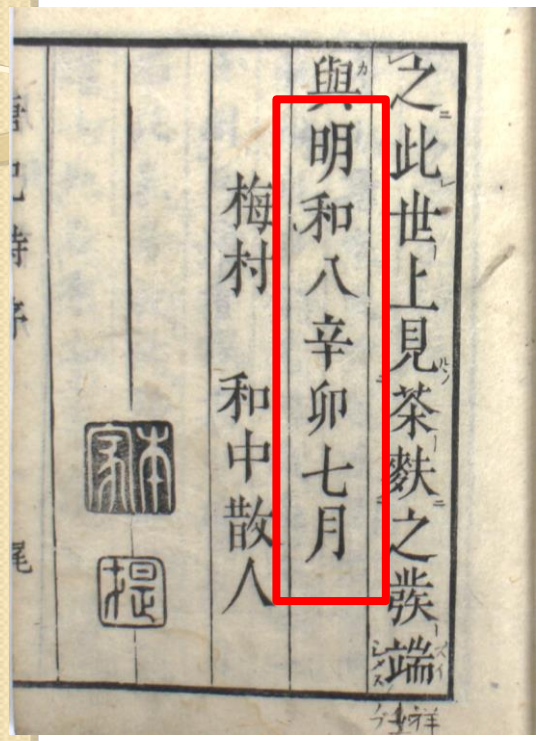
⇒刊記記載年を信じすぎず、
時には疑ってみることも必要

# 事例2　勢多唐巴詩

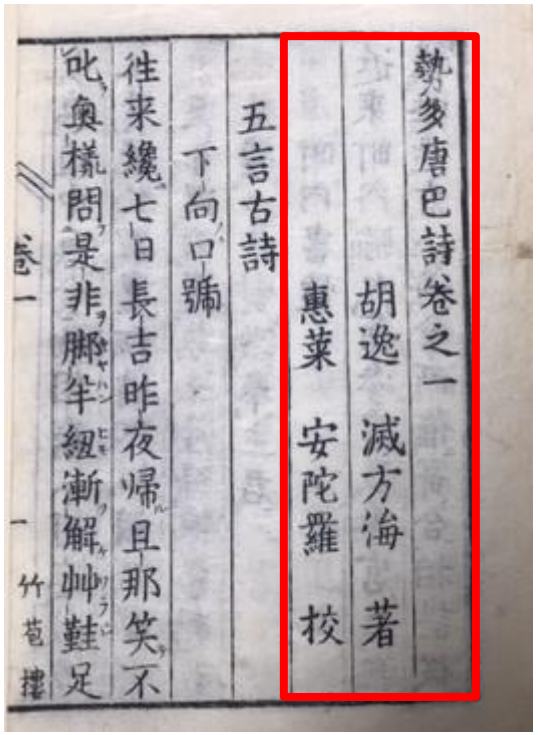
# 勢多唐巴詩の基本情報紹介

S4

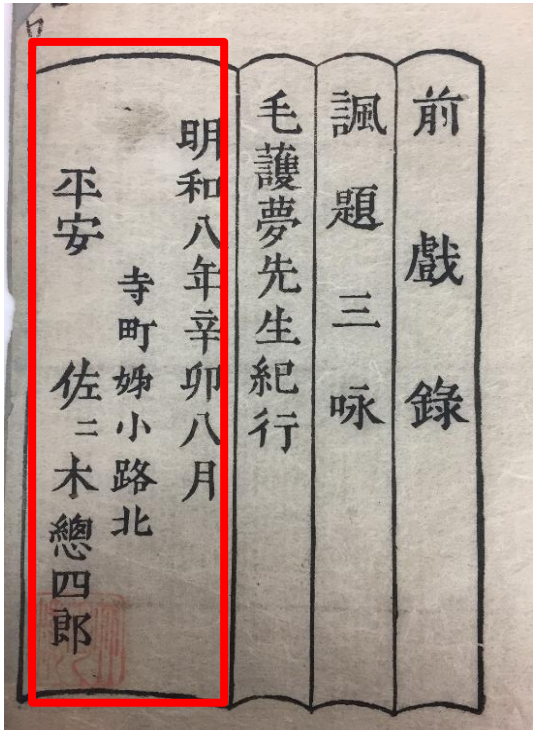
序末




巻首




刊記




TR ：勢多唐巴詩 3巻 / 胡逸滅方海著 ;惠菜安陀羅校
PUB: 平安 [京都] ; 佐々木惣四郎, 明和8 [1771] [刊]
NOTE:
広告: 前戯録（明和7刊）、諷題三咏(明和8序・跋)、毛護夢先生紀行(明和8刊)

※書誌情報は、調査用紙に記した情報をもとにNIIの規則にそって必要な部分を載せた

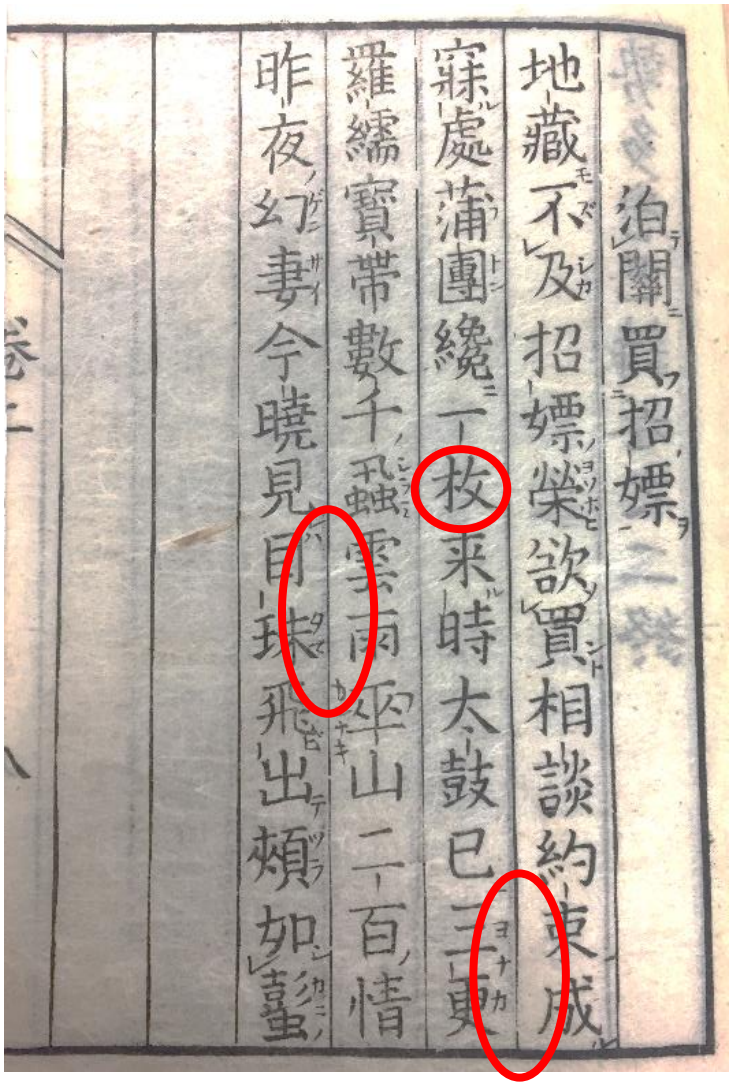
# 勢多唐巴詩の基本情報紹介

| | |
|---|---|
| 著作ＩＤ | 344218 |
| 統一書名 | 勢多唐巴詩（せたのとうばし） |
| 巻冊 | 三巻一冊 |
| 分類 | 狂詩 |
| 著者 | 畠中／銅脈(畠中／観斎) |
| 成立年 | 明和八序 |
| 旧書名 | [１] 344218, 勢多唐巴詩(せたのからはし), 1 |
| 著作注記 | 〈備〉日本古典文学大辞典に解説あり。〈訂〉書名よみ訂正（日本書誌学大系８１・狂詩書目による）。 |
| 国書所在 | 【版】国会，京大，教大，早大（狂詩戯文集二）（一冊），東北大狩野，名大皇学，明大，大阪府，大阪府石崎，日比谷加賀，高野山光台院，神宮，鈴鹿，南木，無窮平沼，旧三井本居，学書言志，［補遺］日比谷諸家，上田花月（通詩選・狂詩画譜・精物楽府と合） |
| 著作種別 | 和古書 |
| 国書 | 『国書総目録』所収（改訂），1 |

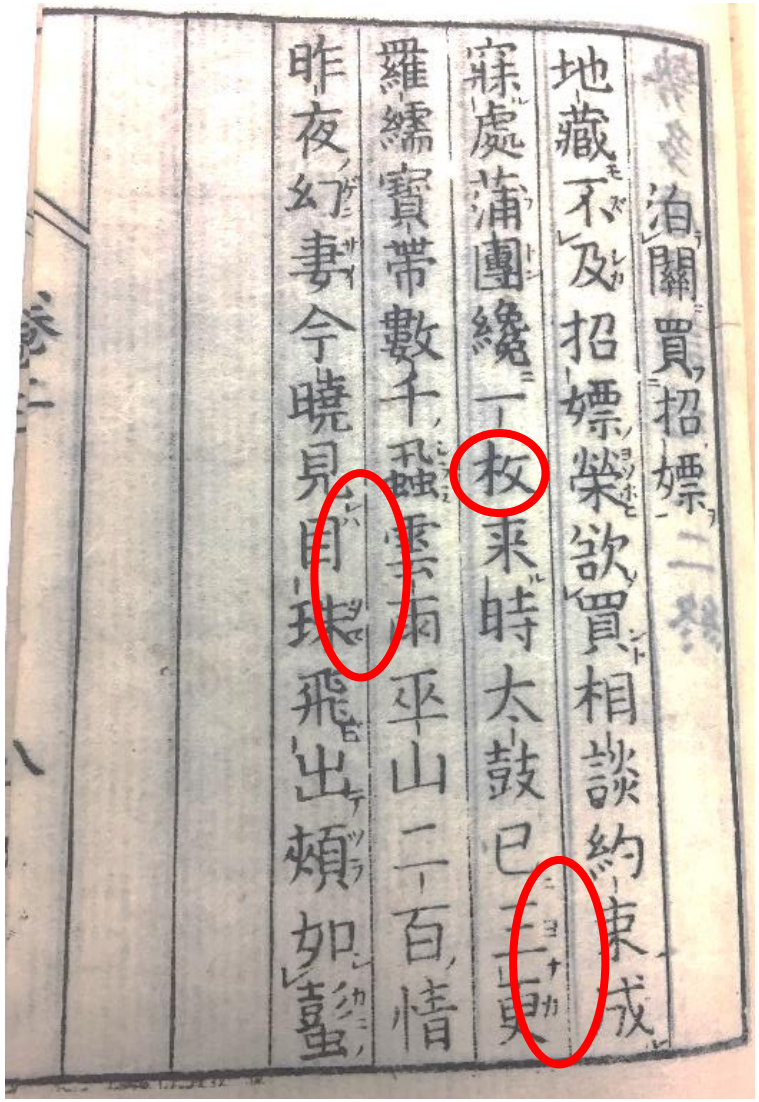
出典：日本古典籍総合目録データベース
http://base1.nijl.ac.jp/infolib/meta_pub/CsvSearch.cgi

# 版木の比較

S4



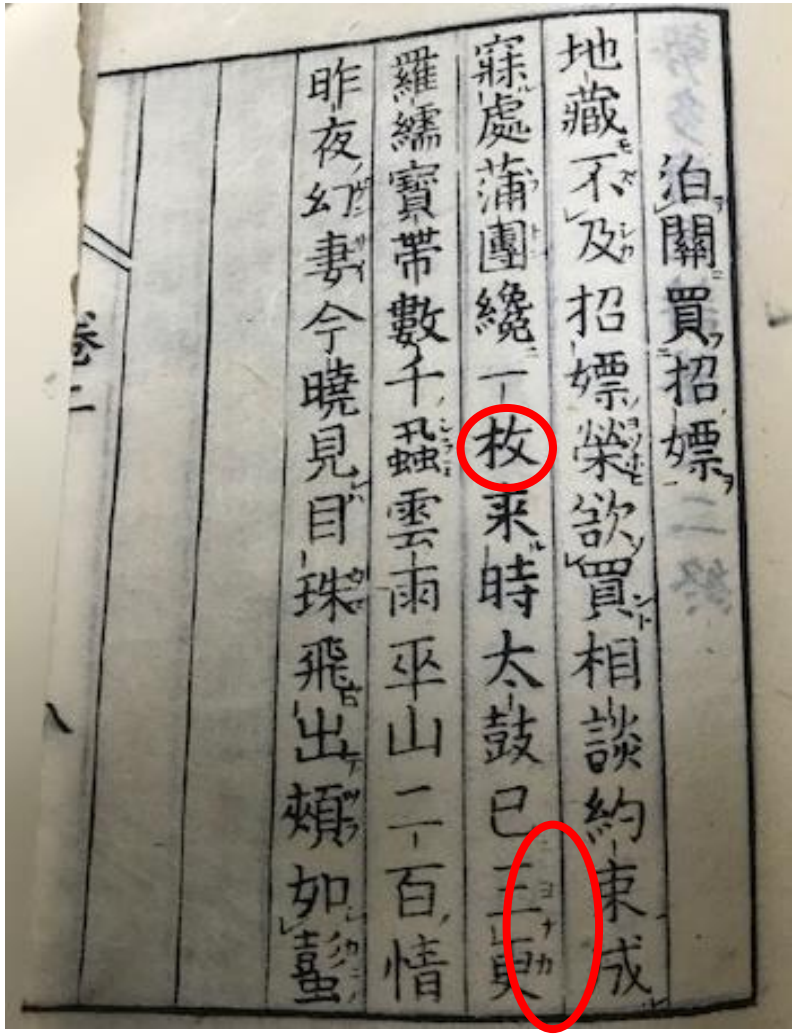
S9



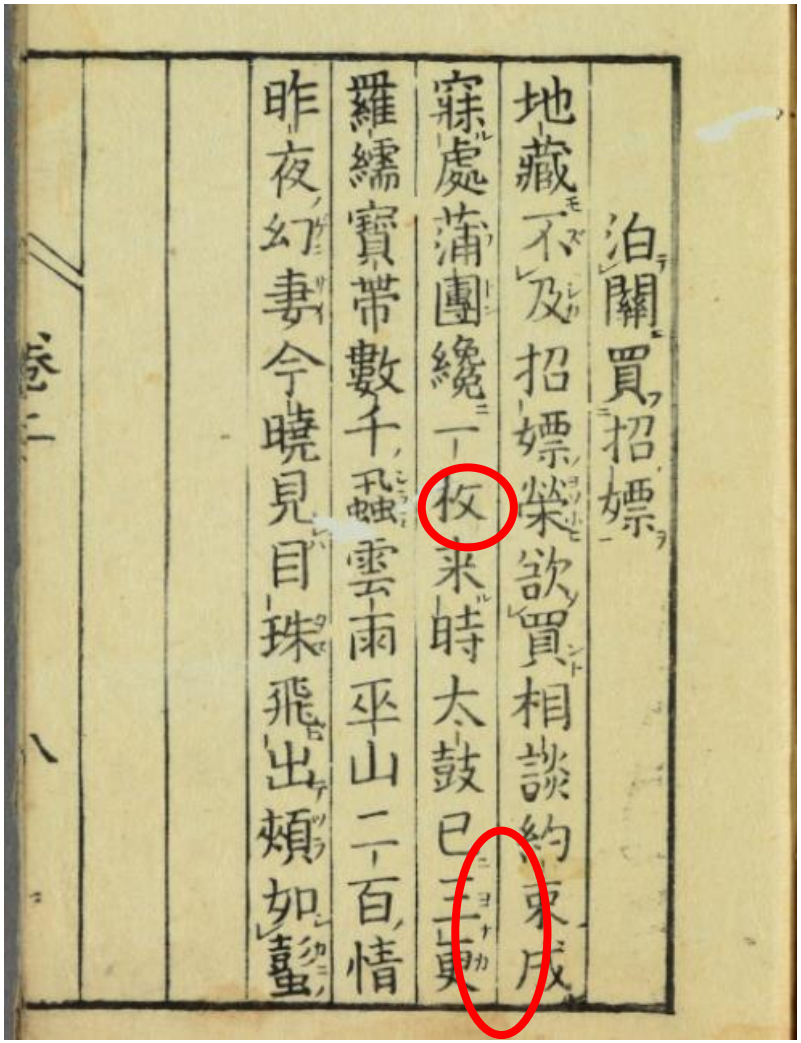
**版木の状態が違う → 摺られた時期も異なる？**

# 版木の比較

C1



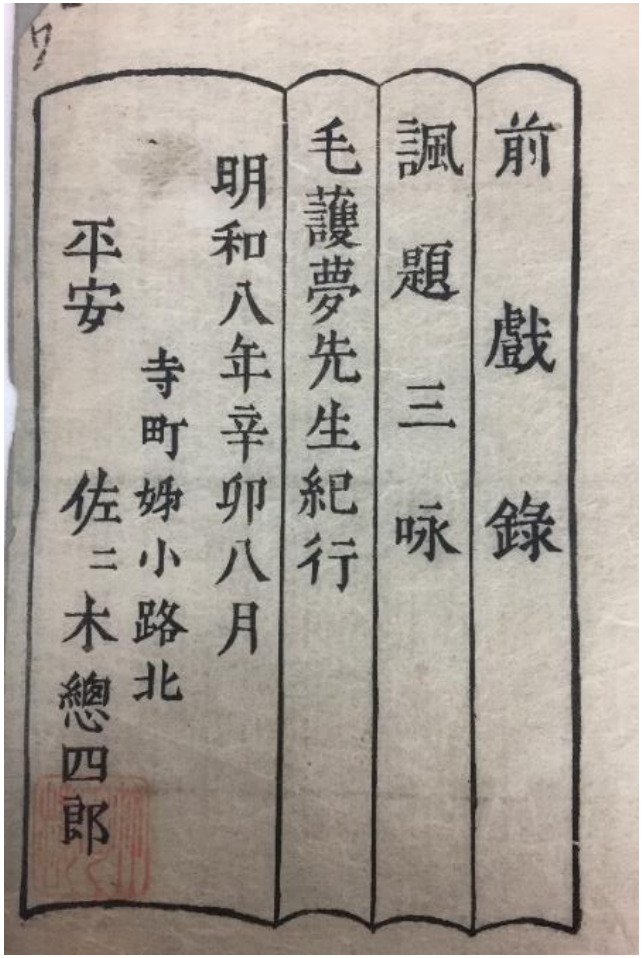
W2



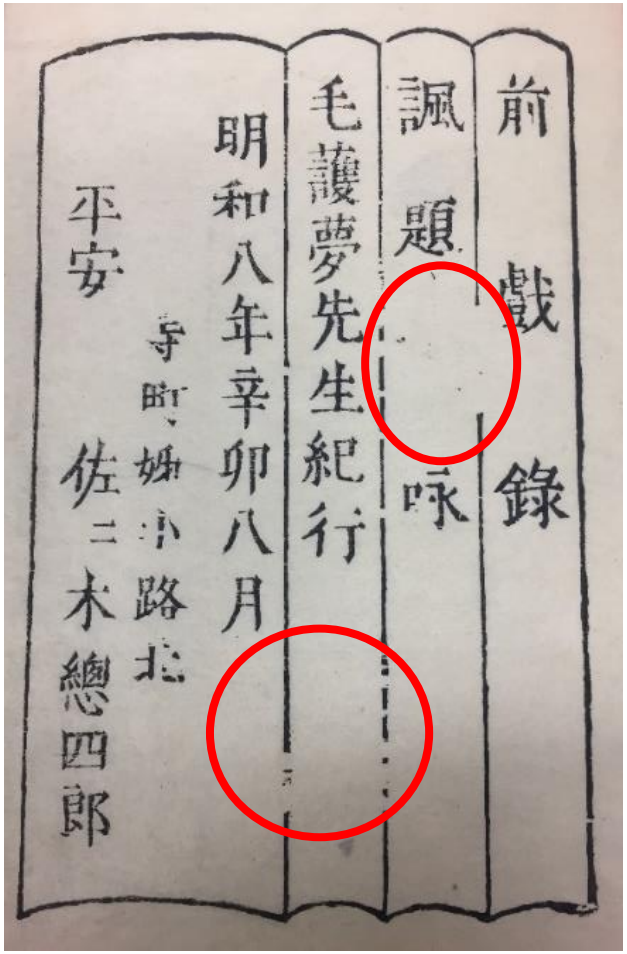
**刊行年がすべて同じでいいのか？**

◆出版年・出版者名・広告あり

S4

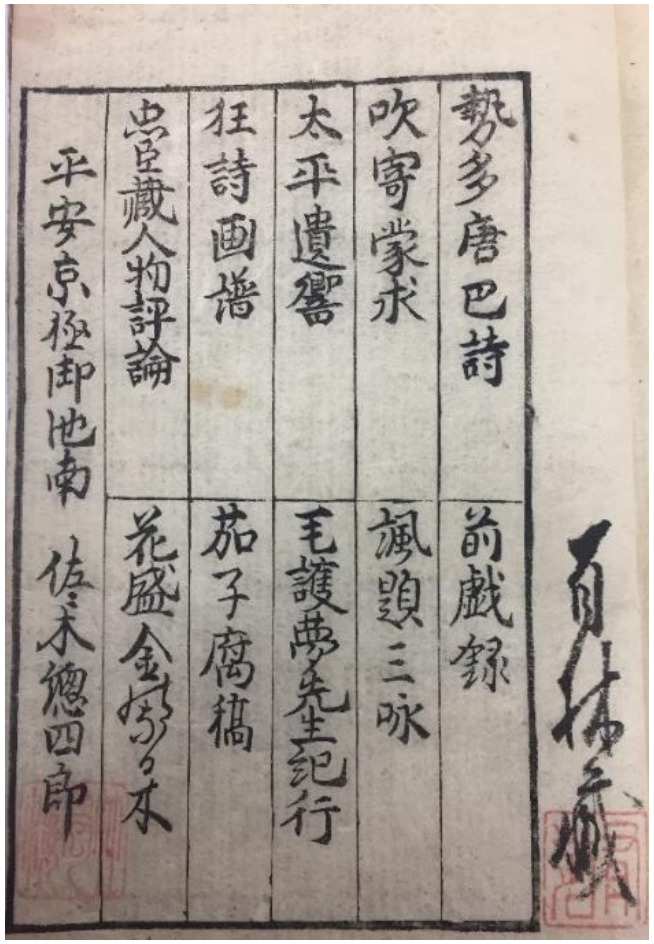



S2

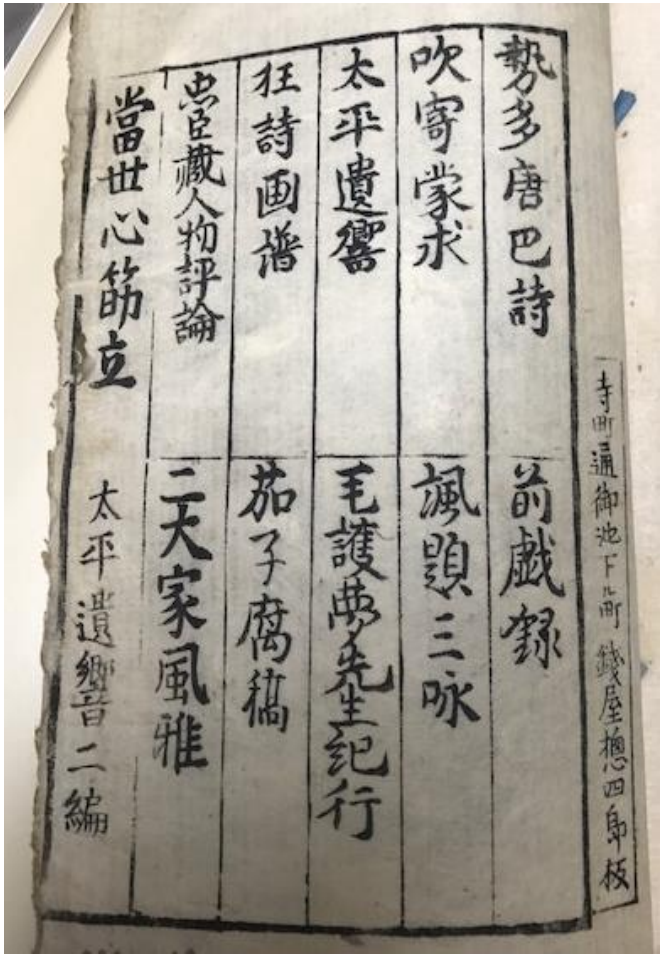


◆出版者名･広告あり

S5

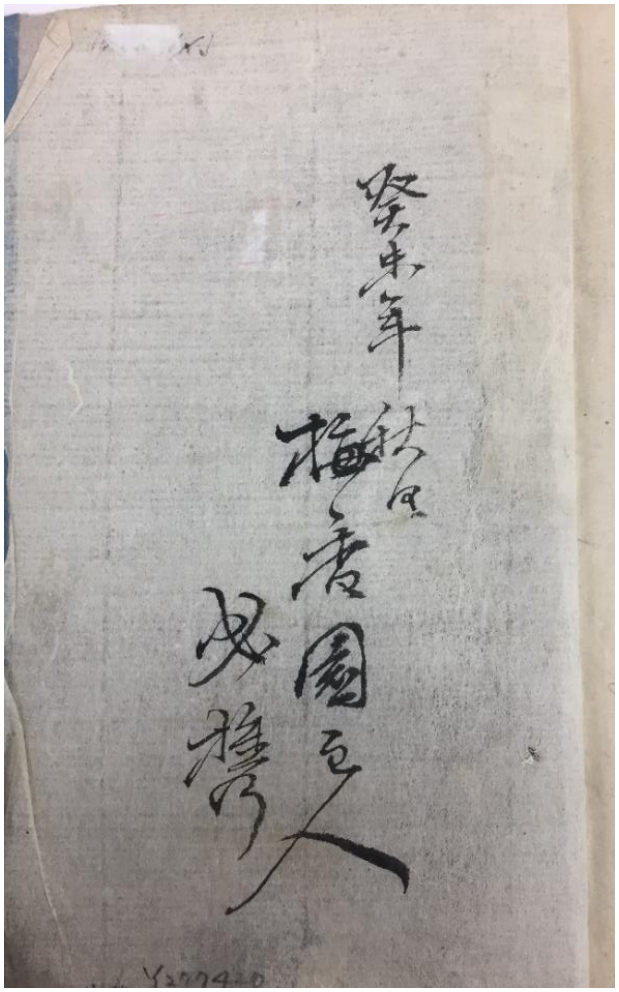



C1



# ◆出版者名・広告ともになし

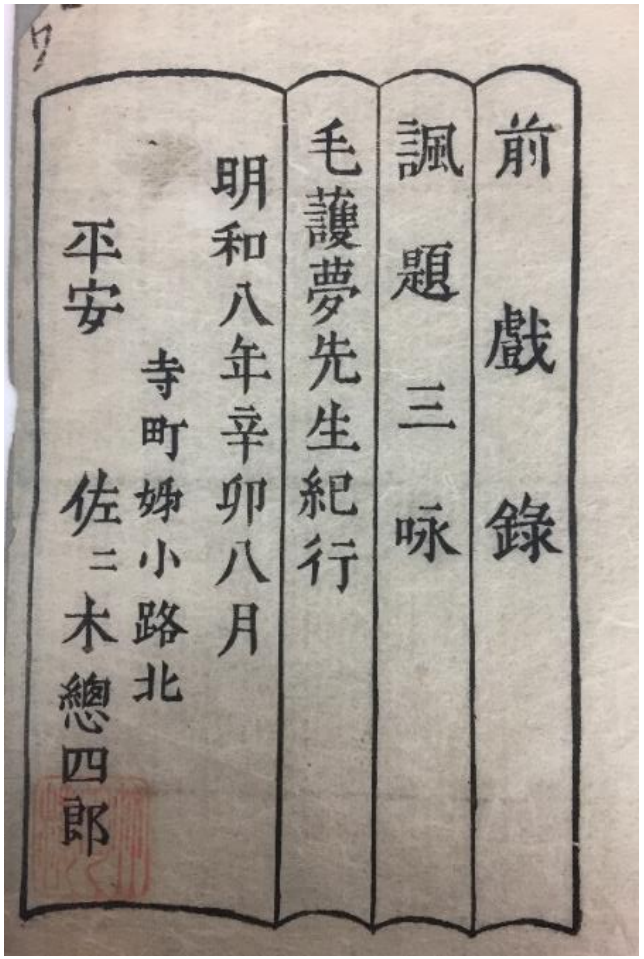
S9



W2

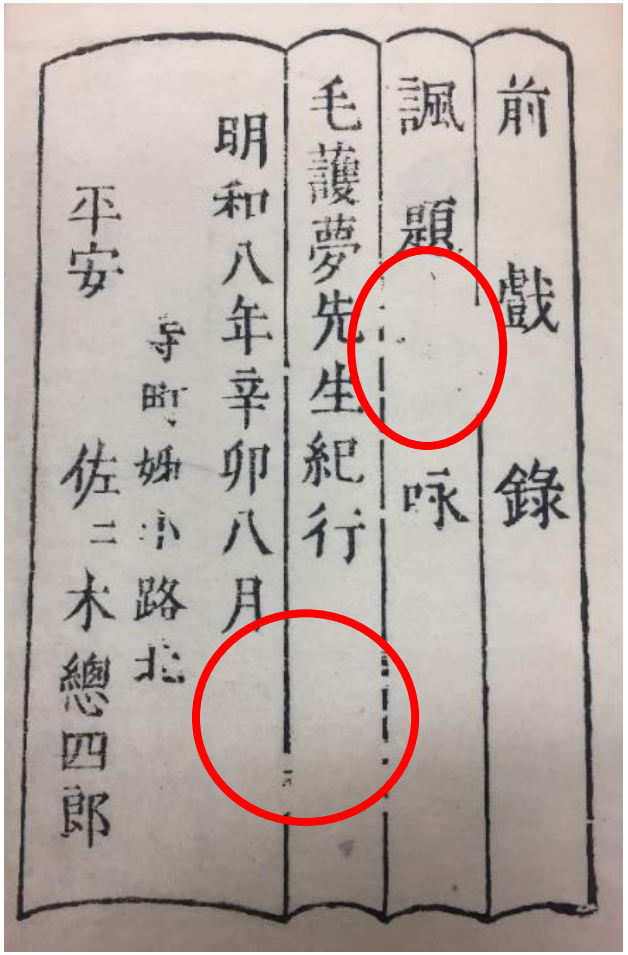
# 印行年検討　ー　出版年･出版者名･広告あり

S4




→刊行年は明和8[1771][刊]か

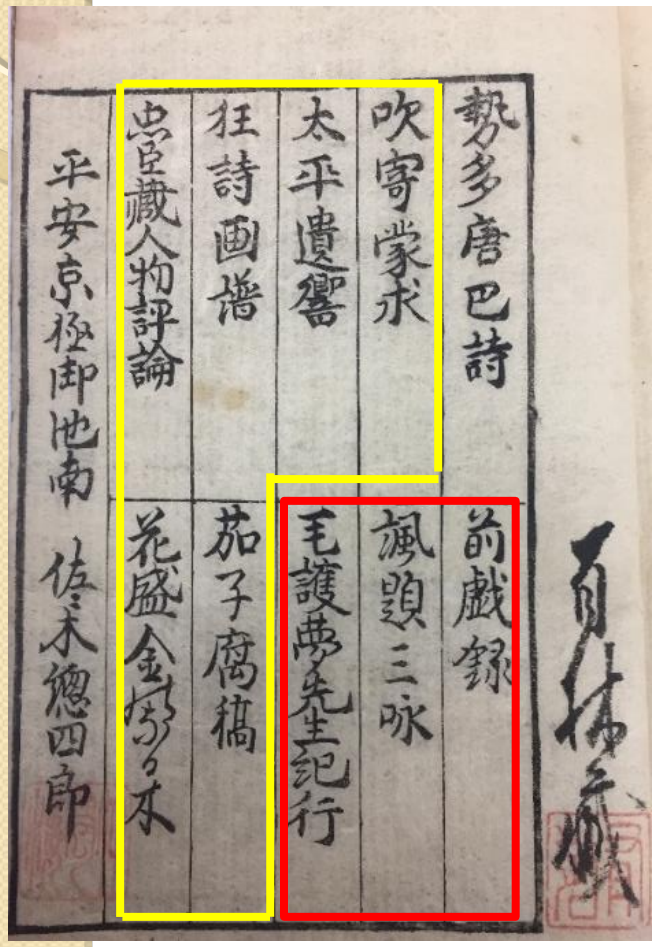
S2




→後印本　→いつ頃摺られた？

# 印行年検討　ー　出版者名･広告あり

S5

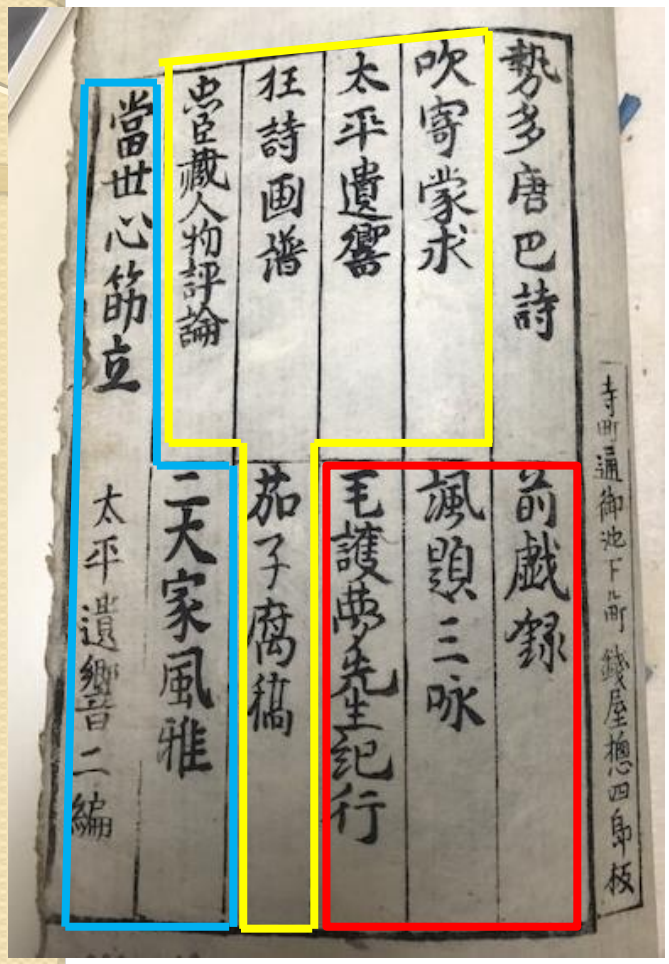



→印行年は[天明頃]か

| チェックポイント | S4 | S5 |
|---|---|---|
| No.1<br>序（義鵬子）2丁表　匡郭右下割れ | × | ○ |
| No.2<br>本文4丁表　匡郭上部割れ | × | ○ |
| No.3<br>本文6丁表　「安陀羅校」の＜校＞はらい | 長 | 短 |
| No.4<br>序（義鵬子）1丁表　匡郭右割れ | × | × |
| No.5<br>序（梅村和中散人）尾裏<br>匡郭左部割れ | × | × |
| No.6<br>序（義鵬子）4丁裏<br>2行目下「補」の送り字＜寸＞の点 | ○ | ○ |
| No.7<br>本文6丁裏　匡郭左側に割れ | × | × |
| No.8<br>本文8丁表　3行目「枚」の＜ノ＞ | 長 | 長 |
| No.9<br>本文8丁裏　界割れ | × | × |

# 印行年検討　ー　出版者名･広告あり

C1

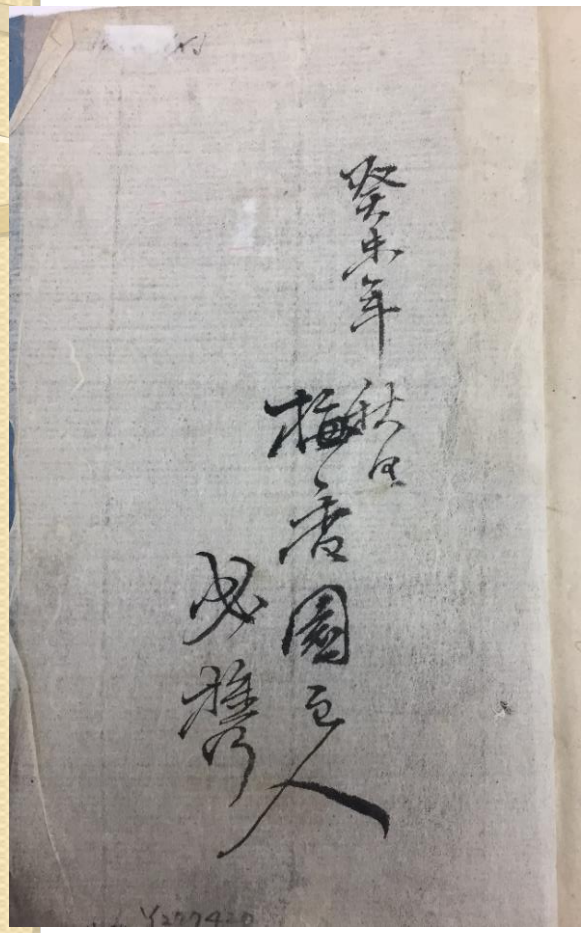



| チェックポイント | S5 | CI |
|---|---|---|
| No.1<br>序（義鵬子）2丁表　匡郭右下割れ | ○ | ○ |
| No.2<br>本文4丁表　匡郭上部割れ | ○ | ○ |
| No.3<br>本文6丁表　「安陀羅校」の＜校＞はらい | 短 | 短 |
| No.4<br>序（義鵬子）1丁表　匡郭右割れ | × | ○ |
| No.5<br>序（梅村和中散人）尾裏<br>匡郭左部割れ | × | × |
| No.6<br>序（義鵬子）4丁裏<br>2行目下「補」の送り字＜寸＞の点 | ○ | ○ |
| No.7<br>本文6丁裏　匡郭左側に割れ | × | × |
| No.8<br>本文8丁表　3行目「枚」の＜ノ＞ | 長 | 長 |
| No.9<br>本文8丁裏　界割れ | × | × |

→印行年は[寛政頃]か

# 印行年検討　－　出版者名・広告ともになし（書入れあり）

S9



書入れ
「癸未年秋日　梅香園主人必携」
→癸未＝文政6[1823]年
→印行年は[文化～文政頃]か

| チェックポイント | CI | S9 |
|---|---|---|
| No.1<br>序（義鵬子）2丁表　匡郭右下割れ | ○ | ○ |
| No.2<br>本文4丁表　匡郭上部割れ | ○ | ○ |
| No.3<br>本文6丁表　「安陀羅校」の＜校＞はらい | 短 | 短 |
| No.4<br>序（義鵬子）1丁表　匡郭右割れ | ○ | ○ |
| No.5<br>序（梅村和中散人）尾裏<br>匡郭左部割れ | × | ○ |
| No.6<br>序（義鵬子）4丁裏<br>2行目下「補」の送り字＜寸＞の点 | ○ | × |
| No.7<br>本文6丁裏　匡郭左側に割れ | × | ○ |
| No.8<br>本文8丁表　3行目「枚」の＜ノ＞ | 長 | 短 |
| No.9<br>本文8丁裏　界割れ | × | × |

# 印行年検討　ー　出版者名･広告ともになし（無刊記）

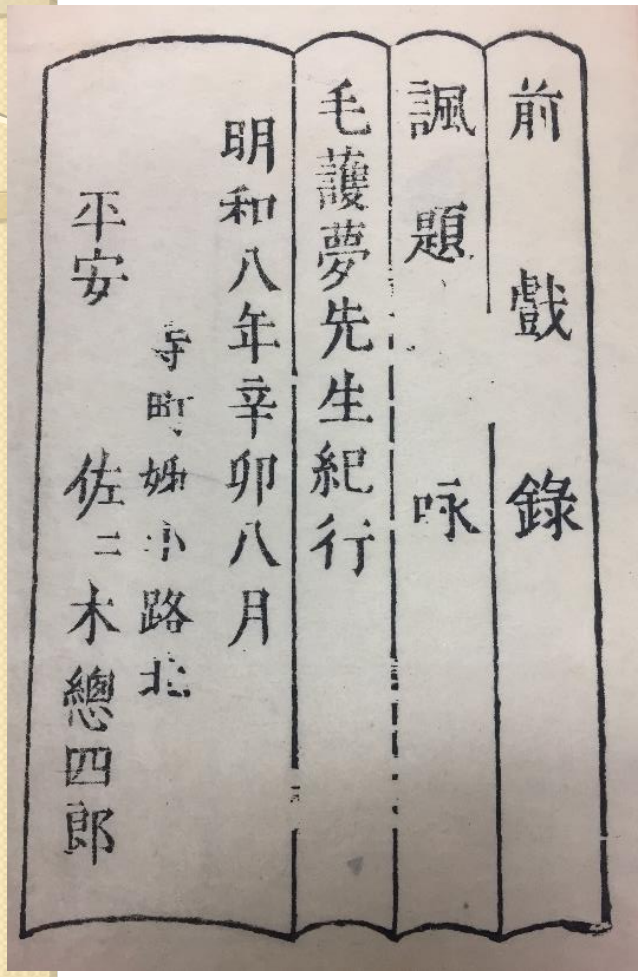
W2

| チェックポイント | S9 | W2 |
|---|---|---|
| No.1<br>序（義鵬子）2丁表　匡郭右下割れ | ○ | ○ |
| No.2<br>本文4丁表　匡郭上部割れ | ○ | ○ |
| No.3<br>本文6丁表　「安陀羅校」の＜校＞はらい | 短 | 短 |
| No.4<br>序（義鵬子）1丁表　匡郭右割れ | ○ | ○ |
| No.5<br>序（梅村和中散人）尾裏<br>匡郭左部割れ | ○ | ○ |
| No.6<br>序（義鵬子）4丁裏<br>2行目下「補」の送り字＜寸＞の点 | × | × |
| No.7<br>本文6丁裏　匡郭左側に割れ | ○ | ○ |
| No.8<br>本文8丁表　3行目「枚」の＜ノ＞ | 短 | 短 |
| No.9<br>本文8丁裏　界割れ | × | × |

→印行年は[文化～文政頃]か

# 印行年検討　ー　出版年･出版者名･広告あり

S2




| チェックポイント | W2 | S2 |
|---|---|---|
| No.1<br>序（義鵬子）2丁表　匡郭右下割れ | ○ | ○ |
| No.2<br>本文4丁表　匡郭上部割れ | ○ | ○ |
| No.3<br>本文6丁表　「安陀羅校」の＜校＞はらい | 短 | 短 |
| No.4<br>序（義鵬子）1丁表　匡郭右割れ | ○ | ○ |
| No.5<br>序（梅村和中散人）尾裏<br>匡郭左部割れ | ○ | ○ |
| No.6<br>序（義鵬子）4丁裏<br>2行目下「補」の送り字＜寸＞の点 | × | × |
| No.7<br>本文6丁裏　匡郭左側に割れ | ○ | ○ |
| No.8<br>本文8丁表　3行目「枚」の＜ノ＞ | 短 | 短 |
| No.9<br>本文8丁裏　界割れ | × | ○ |

→印行年は[江戸末以降]か

# 刊行年・印行年比較

| 資料 | 校合前出版年 | 校合後出版年 |
| --- | --- | --- |
| S4 | 明和8 [1771] [刊] | 明和8 [1771] [刊] |
| S5 | 明和8 [1771] 序 | [天明頃] [印] |
| C1 | 明和8 [1771] 序 | [寛政頃] [印] |
| S9 | 明和8 [1771] 序 | [文化～文政頃] [印] |
| W2 | 明和8 [1771] 序 | [文化～文政頃] [印] |
| S2 | 明和8 [1771] 序 | [江戸末以降] [印] |

# 勢多唐巴詩まとめ

同版資料でも、
摺りの状態や広告・書入れの比較から
印行年を推定できる可能性がある。

⇒版木の状態などを考慮し、
安易に記載年を採用しないことも必要

# まとめ

〇校合調査を行うメリット

調査に時間は要するものの、資料の精密かつ正確な調査および比較によって、「刊・印・修」の年代を特定・推定することができる。

「刊年不明」、刊記記載が疑わしい資料があれば、
図書館の繋がりを活かし、他館とも協力して、
校合調査をしてみませんか？

⇒資料と深く向き合うことで、より正確な、
充実した目録作成につながっていく

# 主な参考文献


| 書名 | 著者名 | 出版者 | 出版年 |
|---|---|---|---|
| 元禄・正徳板元別出版書総覧 | 市古夏生編 | 勉誠出版 | 2014 |
| 近世書林板元總覧　改訂増補 | 井上隆明著 | 青裳堂書店 | 1998 |
| 日本古典籍書誌学辞典 | 井上宗雄 [ほか] 編著 | 岩波書店 | 1999 |
| 図書大概 | 大沼晴暉著 | 汲古書院 | 2012 |
| 江戸時代初期出版年表 | 岡雅彦ほか著 | 勉誠出版 | 2011 |
| 日本書誌学用語辞典 | 川瀬一馬著 | 雄松堂書店 | 1982 |
| 図説書誌学：古典籍を学ぶ | 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編 | 勉誠出版 | 2010 |
| 近世書籍研究文献目録　増補改訂 | 鈴木俊幸編 | ぺりかん社 | 2007 |
| 図書学辞典 | 長澤規矩也編著 | 三省堂 | 1979 |
| 長澤規矩也著作集　第4巻 | 長澤規矩也著 | 汲古書院 | 1983 |
| 江戸の板本：書誌学談義 | 中野三敏著 | 岩波書店 | 2015 |
| 日本書誌学を学ぶ人のために | 廣庭基介, 長友千代治著 | 世界思想社 | 1998 |
| 書誌学入門：古典籍を見る・知る・読む | 堀川貴司著 | 勉誠出版 | 2010 |

# 次期会員募集

大学図書館職員として身につけておきたい知識を基本から習得

（初心者大歓迎!!）

貴重な資料に触れつつ日本の文化を学び、書誌作成方法を習得することができます。

皆様のご参加をお待ちしております。

## ※画像の転載について

本資料には駒澤大学と立正大学所蔵の『科註妙法蓮華経』、成城大学・中央大学・早稲田大学所蔵の『勢多唐巴詩』の画像を使用しています。資料画像転載の可否につきましては、各大学へお問い合わせください。